

令和8年度新規研究課題

課題番号 (R08-01)

課題名 : 水稻「にじのきらめき」の特性を発揮する栽培技術の確立

研究期間 : 令和8～10年 (2026年～2018年)

研究担当 : 農林業技術部 農業技術研究室

1 研究の背景

近年、夏期の異常高温が続き、全国的に米の品質低下が問題となっている。高温による品質低下への対応は、高温耐性品種¹⁾への転換が最も効果が高く、本県では平成29年に中生品種の「恋の予感」を奨励品種に採用したが、高温の影響を受けやすい極早生品種については、導入されていない。

こうした中、農研機構で育成された高温耐性および多収性を有する極早生品種「にじのきらめき」は、奨励品種への採用が検討されており、円滑な普及に向けた栽培技術の確立が急務である。

また、令和の米騒動に関する報道等で省力、多収技術として乾田直播栽培や再生二期作が注目されており、「にじのきらめき」のこれらの技術への適応について検討が必要である。

2 目的

「にじのきらめき」の施肥体系および収穫時期の目安を明らかにすることで安定栽培技術を確立するとともに、省力多収栽培技術への適応を検討する。

3 研究内容

(1) 安定多収栽培技術の確立

- ・「にじのきらめき」を安定多収(660kg/10a)とする施肥体系の解明
- ・品質に影響しない収穫時期とその判断基準作成

(2) 省力多収栽培技術への適応確認

- ・乾田直播栽培²⁾への適応性の検証
- ・山口県における再生二期作³⁾栽培の成立条件の解明

4 研究のポイント

- ・「にじのきらめき」を安定多収とする施肥体系を明らかにする。
- ・品質低下を防ぐ収穫時期の判断基準を作成する。
- ・乾田直播栽培の適応性を評価し、適正な条件を明らかにする。
- ・再生二期作が成立する条件を解明し、さらなる多収技術としての確立を目指す。

脚注 1) 米が実る時期が高温となっても玄米の品質や収量が低下しにくい品種
2) 水を張る前の田に種子を播き、芽が出た後に水を入れる栽培法。代かき作業が不要となる
3) 1度収穫した稲の株から再び伸びる茎(ひこばえ)を育て、2度目の収穫をすること

水稻「にじのきらめき」の特性を発揮する栽培技術の確立

農林業技術部 農業技術研究室

米を取り巻く情勢の急激な変化

- 夏季の異常高温による米の品質低下が増加
- 担い手への農地集積が進み米生産の省力化が必要
- 高温登熟性に優れる多収品種「にじのきらめき」の奨励品種化を検討



「にじのきらめき」のスムーズな導入

多収性の高温登熟耐性品種「にじのきらめき」について、本県に適する安定多収栽培技術の確立や、省力化を可能とする栽培体系の検証が必要

安定多収栽培技術の確立と省力多収栽培技術への適応確認

- 1 効率的な多収栽培条件の解明
 - 収量 660kg/10a を実現する施肥法の解明
 - 収穫適期、収穫可能期間の確認
- 2 省力多収栽培技術への適応確認
 - 乾田直播栽培の適応性の評価
 - さらなる多収技術として注目される再生二期作の検証



山口県版「にじのきらめき」栽培マニュアル

「にじのきらめき」の普及拡大、安定生産に寄与

安定多収栽培による高品質な県産米の安定供給
省力化技術による担い手の規模拡大